



防災士だからこそ！

スフィア基準を正しく知ろう



特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ
代表理事 岡野谷 純（スフィアトレーナー）

本日知って欲しいこと

- 1) スフィアの理念
- 2) スフィアに関する勘違い
- 3) CHS（必須基準）
- 4) 追加情報

その前に・・・

- ・スフィアが全てではない
- ・基準が守れないと、人権意識が低い？、ひどい国？ ではない!!
- ・スフィアは災害支援の1ツール、有効に活用してより良い支援を♥



日本語版スフィアハンドブック

<https://jqan.info>

1) スフィアの理念

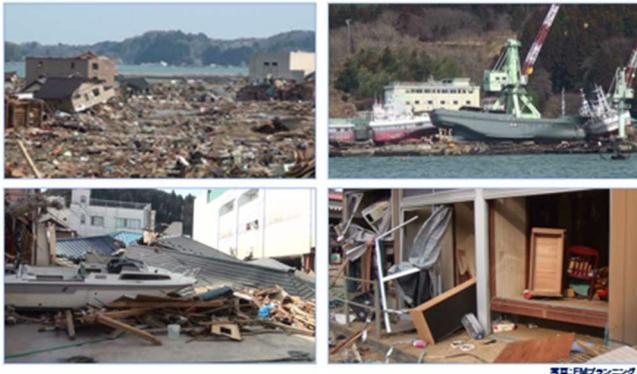
世界各地での長年にわたる災害や紛争時の被災者・難民支援の成功と失敗、反省の経験を経て得られた理念が「スフィア基準」の基盤になっています。

災害や紛争の影響を受けた人びとには**尊厳ある生活を営む権利**があり、**従って、支援を受ける権利**がある。

災害や紛争による苦痛を軽減するために、**実行可能なあらゆる手段**が**尽くされなくてはならない**。

近年の災害：

[東日本大震災]



[その後の災害]



右の画像を見てどう思いますか？



主体は被災した人びと：支援を受ける権利

- ・かわいそうだから助けてあげる
- ・ ・は× ←主体は支援者

被災した人々は：

- 「避難所でも尊厳や安全が守られる」
 - 「避難生活で我慢し続けなくていい」
 - 「(尊厳、健康、安全を守るための)支援を受けていい」
- それを「サポート」するのが私達(支援者)です。

- ・「かわいそう」の線ができていませんか？
- いつでも振り返ることが大切です。



おむつ	飲み物	寝具
S・L	コーヒー	ベッド
M	水・茶	敷布・毛布

かわいそうな人々！
だから助けてあげよう

尊厳ある生活ができている？
どんな支援が提供できるかな

2) スフィアに関する勘違い（大誤解）

避難所の一人当たりのスペース？



出典：AbemaTIMES

トイレの男女比は1：3？

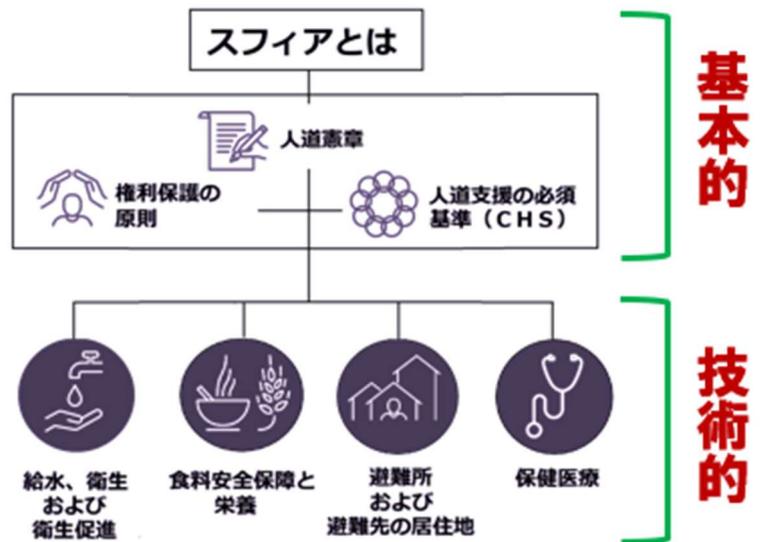


出典：https://www3.nhk.or.jp/news/

- これらは、「スフィア基準」ではありません。
スフィアハンドブックには出て来ますが、「基準」ではないことをご理解ください。

スフィアハンドブックの構成

- 基本的なことが書かれた4章
スフィアとは
人道憲章
権利保護の原則
人道支援の必須基準
- 技術的なことが書かれた4章
水・衛生関係
食料と栄養
避難所
保健医療



各最低基準の構成

- 最低基準：広く適用される 提言、支援者の姿勢
- 基本行動：基準を満たすための具体的行動（選択可）
- 基本指標：行動の到達目安
- ガイダンスノート：追加情報・文献

3.5 m²は「基本指標」の一つです。
「スフィア基準」ではありません。

避難所および避難先の居住地基準 3：
居住スペース
入居は安全および適切であり、尊厳をもって家庭生活や生計を立てるために必要な活動を行うことができる居住スペースへのアクセスを有している。

基本行動

- 1) 影響を受けた世帯は、基本的な家庭活動を行うための適切な居住スペースを有している。
- 2) 地域の文化や生活習慣を尊重する形で、睡眠、調理、食事に伴う家族のメンバーの多様な要求に対応した居住スペースを提供する。
- 3) 居住者とその家族の財産を守るため、必要最低限である屋根と四方の壁を提供し、身体的安全、尊厳、プライバシーおよび天候からの保護を得られるよう取り計らう。
- 4) 最適な照明条件、換気、温度の快適さを提供する。
- 5) 居住スペースを直接取り囲む空間が、基本的な活動に安全に行うことにつながる確がある。
- 6) 調理、トイレ、洗濯、入浴、生計手段を得る活動、社交と余暇のための適切な区域を含む。
- 7) 文化的および社会的に許容可能であり、環境持続可能性のある避難所での解決方法、建築技法および資材の使用を促進する。

基本指標

避難所内、またはそのすぐ周辺に、日常的な活動を行うための適切な居住スペースを有する影響を受けた人びとの割合

- 1人あたり最低3.5m²の居住スペース（調理スペース、入浴区域、衛生設備を除く）
- 寒冷気候または都市部において、調理スペースと入浴および/または衛生設備が居住スペース内に設置される場合、1人あたり、最低4.5～5.5m²
- 内部天井間の最高点が、少なくとも2m（高温気候の場合、2.6m）

スフィア基準

避難所及び避難先の居住地基準 3： 居住スペース

人びとは安全および適切であり、尊厳をもって家庭生活や生計を立てるために必要不可欠な活動を行なうことができる居住スペースへのアクセスを有している。



スフィア基準は「提言」、質的な表現。 指標（数や量）ではありません。

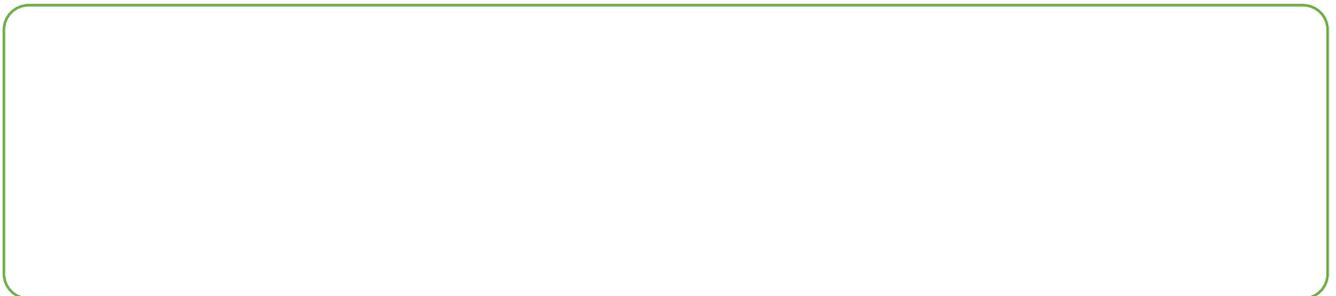
では、基準が満たされない時にはどうすればよいのでしょうか。

- ・基準が満たされないことによる負の影響を見極める。
- ・影響を最小限に抑えるための措置を取る。
- ・できるだけ早く指標を達成する。

この努力 ⇒ スフィア基準の遵守

基準は状況に応じて使う

- ・スフィア基準はハウツーではなく、数値を提供しているのでもない。
- ・被災した人びとの尊厳ある生活を確保するために何が必要かを明確にし、支援に繋げる。



3) CHS（必須基準）

被災した人びとが支援者に期待する
（期待できる）こと
個人と組織が遵守すべきコアとなる
必須基準



CHSの構成

コミットメント+質の規範

- ・コミットメント（被災者目線）
被災した人びとが支援者に期待する（できる）こと
- ・質の規範（支援者目線）
人道支援者（個人・組織）がどう取り組むべきか

パフォーマンス指標：コミットメントの達成度

基本行動：個人が実施する支援

組織の責任：個人を支える組織の実施すること

ガイダンスノート：追加情報

コミットメント 1

影響を受けた地域社会や人びとはニーズに合った支援を受けられる。

質の規範

人道支援は状況にあわせて適切に実施されている。

パフォーマンス指標

1. 人道支援は影響を受けた地域社会や人びとの特定のニーズ、文化、嗜好を考慮に入れている。
2. 提供される支援や保護は事前調査で把握されたリスク、脆弱性、ニーズに対応したものになっている。
3. 人道支援は、支援と保護を必要としている人びとの能力やスキル、知識を考慮に入れている。

基本行動

1.1 影響を受けた地域社会や人びとの背景や状況、関係者と団体の体系的、客観的、継続的な分析を行う。

- ・ 地方行政やその他の公的または民間組織の役割と能力、それらの組織に危機が与えた影響を評価する。
- ・ 物資、人、市場など既存の地域の能力を評価し、優先順位は経時的に変化することを理解した上で、優先度の高いニーズから支援と保護を提

組織の責任

1.4 影響を受けた地域社会と人びとのニーズや能力に基づいて公正な支援が行われるよう、方針が立てられている。

- ・ 支援組織は、人道原則と包摂性に対するコミットメントを遂行するための政策、工程、システムを保持する。

ガイダンスノート

アセスメント（事前調査）と分析は経時的なものであり、単回性の作業ではない。影響を受けた人びとや地域社会の能力やニーズは推察に基づくものであってはならない。彼らとの継続的な対話によって見出されたニーズに基づ

CHS（要約） 正式な文はスフィアハンドブックをご覧ください

	コミットメント 影響を受けた地域社会や人びとは・・・	質の規範 あなたの支援は・・・
1	ニーズに合った支援を受けられる	ニーズに合っていますか？
2	タイムリーに支援を受けられる	タイミングがずれていませんか？
3	支援の結果、よりよい備えや回復力を得て、より安全な状態になっている	地元の力を引き出すような関わり方をしていますか？
4	地域の人々が必要な情報を確保でき、意思決定に参加できる	地域の人々の声が支援に反映されていますか？
5	苦情や要望を安全に伝えることができ迅速な対応を受けられる	苦情を積極的に受け入れていますか？
6	支援団体間で専門分野を補い調整され過不足のない支援を受けられる	重複や漏れが無いように支援団体間で調整していますか？
7	支援組織が常に活動を振り返ることで改善された良い支援を受けられる。	支援内容を改善し続けていますか？
8	十分な能力のある、管理の行き届いた支援者から支援を受けられる	必要なスキルや知識を身につけていますか？
9	支援物資や資金が無駄なく提供され倫理的に管理されている	資金や物資は、無駄なく適正に使われていますか？

参照：被災者支援のヒント集（JPF）

CHSは全体で1つの基準です。どれ一つも疎かにしない努力が必要です。



4) 追加情報

スフィア基準の活用：

スフィアハンドブックを活用してください。

- ・今実施中の活動をスフィアと照らし合わせてみて下さい。抜けはありませんか？
- ・他団体との調整、活動了後の振返り、今後の支援に備えるためにもご活用ください。

内閣府発行の「避難所運営ガイドライン」(平成 28 年 4 月)において、「避難所の質の向上」を考えるとときに参考にすべき国際基準「スフィア・ハンドブック」が掲げられています。

支援者の評価、活動費助成、寄付支援にも「スフィア基準の活用」が謳われています。

スフィアハンドブック研修：

2日間の集合研修、2～3日間のオンライン研修

2～3時間の概要研修(集合・オンラインとも)

4～6日間のトレーナー養成研修(集合研修のみ)

※スフィアハンドブックに関する研修は様々なパターンで提供されています。具体的な開催予定はスフィア基準・スフィアハンドブックの普及を行う JQAN や、その他研修提供団体にお問合せください。

最後に：

- ・東日本大震災、その後の多くの災害への支援はまだまだ続いています。
- ・首都直下地震・東南海地震、今後起こりうる災害への準備はできていますか？
- ・ご自身の身心を健康に保ちつつ元気にご活躍ください。スフィア基準を片手に。



岡野谷 純

June Okanoya

特定非営利活動法人
日本ファーストエイドソサエティ
代表理事 (JFAS)

1990～ 救命救急法研修
・MFA・AHA・他

1995～ 支援活動者の安全衛生
・安全衛生コーディネーター
・支援者のこころのケア
・スフィア国際基準

2018～ 救命法プログラム共同開発
アジア諸国・中南米諸国




<https://www.facebook.com/jfaspal>



平時：

- ・研修・講演(救急法・事故予防・災害支援)
- ・イベントの救護班・災害医療訓練の支援

災害時：(現地・後方支援)

- ・広域避難に関するフォロー・スーパーバイズ
- ・災害時活動者の安全衛生コーディネーター